

3 点検及び評価の結果

(1) 基本目標 夢の実現に向けて自立し 互いに支え合う人づくり

基本施策1 帯広の明日を拓く力の育成

個別施策	1-1 ふるさと教育の推進
めざす姿	子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、社会の一員として地域活動に積極的に参加しています。
施策担当課	学校地域連携課、学校給食センター、学校教育指導課、教育研究所、児童会館、百年記念館、動物園、スポーツ課

成果指標の状況							
指標名	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27~R1平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	44.7	39.4	48.8	49.6	73.1		60.0以上
中学校	39.1	38.9	41.1	42.9	65.9		55.0以上

<成果指標の達成状況>
 R4と比較して小学校では23.5ポイント、中学校では23ポイント増加し、目標値を達成しています。R5に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、地域や環境を学ぶ機会が増加したことや、「おびひろ市民学」での出前授業等を通して、授業協力者との関わりが十分に醸成されたことによるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 地産地消に取り組む学校給食</p> <p>地元の農業関係者等と連携し、地場産野菜の導入促進を図りました。</p> <p>ふるさと給食（9月～11月の各1日）では地場産食材を積極的に活用し、地域の食や産業への理解促進を図りました。</p> <p>また、学校給食の更なる魅力向上を図るため、食の専門家や生産者、企業と連携し、地元産食材を使用した加工品の開発を進めたほか、学校給食をテーマに食の大切さや地産地消を考える標語コンテストを実施しました。</p>	 <p>玉ねぎなどを生産している いずみ農園のみなさん</p>  <p>ふるさと給食で提供した 「十勝野菜のオベリベリ煮込み」</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1) 地域資源を活用したふるさと理解の促進</p> <p>小中義務教育学校9年間を通して、食や福祉、文化等、様々な視点から帯広を知るための授業である「おびひろ市民学」において、様々な体験を通じて地域社会の一員としての意識を育む教育を進めました。また、関係団体の新規協力を拡充し、学校が活用できる新たな講座を開発するとともに、学校以外の各種教育施設においても、それぞれの特色を活かし、展示や各講座、スポーツ体験等を通じた学びの機会を提供しました。</p>
	<p>(2) 食を通じたふるさと理解の促進</p> <p>「ふるさとの日」や「学校給食週間」における、地場産食材を活用した給食の提供を通じて、児童生徒における地域の食や産業への理解促進を図りました。また、「おびひろ市民学」において「帯広らしい食育プログラム」を実施し、栄養教諭や食育指導専門員による、食を通じたふるさと理解を進めました。</p>
	<p>(3) 地域社会に参画する意識の醸成</p> <p>各団体等と連携し、体験活動やリーダー研修を通して地域や学校での活動に取り組む青少年リーダーを養成しました。また、防災・減災意識の啓発を図り、地域における自主防災活動への参加や活動の活性化を促すための、親子防災講座の実施など、まちづくりに参画する社会の一員としての意識づくりに取り組みました。</p>
	<p>(4) 環境教育の推進</p> <p>環境破壊や自然災害を自らの課題として捉え、課題解決にあたる主体性を育むため、実社会との結びつきを意識した教育を進めたほか、児童会館や百年記念館での展示・出前講座等により環境について考え学ぶ機会を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 地域資源を活用したふるさと理解の促進</p> <p>郷土への愛着や誇りを育むため、引き続き「おびひろ市民学」による学びを進めるほか、新たな講座（プログラム）の開発を進めます。また、地域資源や特色を生かしたスポーツ体験や、動物、科学等に触れる機会を提供します。</p>
	<p>(2) 食を通じたふるさと理解の促進</p> <p>地域の食や産業への理解促進を目的として、今後も地場産食材を活用した「ふるさと給食」を提供するほか、「おびひろ市民学」における「帯広らしい食育プログラム」を実施し、栄養教諭や食育指導専門員による、食を通じたふるさと理解を進めます。</p>
	<p>(3) 地域社会に参画する意識の醸成</p> <p>各団体等と連携しながら、体験活動やリーダー研修を通じた、養成事業の充実を図ります。また、子どもたちが消費者の権利や責任ある消費行動を理解し、計画的な金銭管理の必要性や契約の仕組み等の基本的な知識を身に付ける機会を提供するほか、小中義務教育学校において親子防災講座を実施し、ボランティアや防災活動への参加意識を高めます。</p>
	<p>(4) 環境教育の推進</p> <p>学校での環境教育を推進し、子どもたちが地域の自然環境について学び・考える機会を設けるほか、帯広の自然や学校以外の教育施設を活用した体験機会を提供します。</p>

個別施策	1-2 職業観の育成
めざす姿	子どもたちが様々な職業に興味を持ち、働くことの大切さや地域産業への理解を深めています。
施策担当課	学校地域連携課、学校教育指導課、図書館、児童会館、百年記念館、動物園

成果指標の状況							
指標名	人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合 (%)						
区分	基準値	実績値					目標値 (R11)
	【H27~R1 平均】	R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	93.6	93.8	95.6	93.8	93.8		100.0
中学校	94.6	95.6	95.5	96.9	95.5		100.0

<成果指標の達成状況>

R4と比較して小学校では横ばいで推移し、中学校では1.4ポイント減少となり、目標値に向けて進捗していません。「おびひろ市民学」の授業等を通して多様な大人に触れ、大人から子どもに社会参画の意義等を伝えたり、一人一台端末を活用した多様な調べ学習を行ったものの、十分に理解を深められなかったことによるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆「おびひろキッズタウン」における職業体験</p> <p>キャリア教育の一環として、地域の企業や官公庁の参加による職業体験「おびひろキッズタウン2023」を開催しました。</p> <p>地域社会全体で子どもを育てる機運を高めつつ、仕事の楽しさやお金の価値、働くことの意味など、社会の仕組みを学ぶ機会を提供することができ、令和5年度は第4学年150人を対象に実施し、132人の参加がありました。</p>	 <p>出展企業の指導のもと職業体験をする様子</p>
<p>◆ おびひろ市民学の推進</p> <p>子どもたちが、十勝・帯広の歴史や文化、自然や産業等について、小中義務教育学校9年間を通して系統的に学び、十勝・帯広への理解を深め、郷土への愛着や誇りを育むために、地元企業等と連携した授業を実施しました。</p> <p>また、中学校第3学年において学びのゴールとして「帯広のこれから～私の行動宣言～」という単元を実施し、帯広のことを学んだ子どもたちが帯広の未来をじっくりと考える機会をもちました。</p>	 <p>昨年度中学校で行われた授業「帯広のこれから」の様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)学校におけるキャリア教育の推進</p> <p>多様な職業について理解を深め、地域社会の一員としての意識を育むため、地元企業等と連携し、外部講師を招きながら体験学習や講話等を行う授業等を行いました。また、一人一台端末を活用したオンライン工場見学やインターネットによる調べ学習等、キャリア・パスポートを活用した系統的な指導に取り組みました。</p> <p>(2)職業体験機会の充実</p> <p>美容師や銀行員、スーパー店員など、19の職業体験ができる「おびひろキッズタウン」を地域の企業や官公庁の協力のもと実施しました。</p> <p>図書館では、小学生を対象にした「なりきり図書館員」の実施や職業体験、インターンシップの職業インタビューを通じ、市役所や司書の仕事について理解を深める機会を提供しました。</p> <p>百年記念館では、中高校生向けのインターンシップとして、博物館での仕事を体験する機会を提供しており、令和5年度は中学生3人の受け入れを実施しました。</p> <p>動物園では、飼育体験等の講座実施のほか、大学生の博物館実習やインターンシップの受け入れ、小中義務教育学校からの依頼による職業調べや講話を通じ、飼育員や獣医師の仕事について理解を深める機会を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)学校におけるキャリア教育の推進</p> <p>「おびひろ市民学」において「キャリア・パスポート」の視点を取り入れた「おび学ファイル（ポートフォリオ）」を9年間継続して活用するとともに、児童生徒の系統的な学びの充実による社会的・職業的自立に向けたキャリア意識の向上が図られるよう、各学校の主体的な講座の選択を促していきます。また、積極的にキャリア教育に取り組んでいる学校の事例について、学校間連携が図られるよう情報を共有します。</p> <p>(2)職業体験機会の充実</p> <p>「おびひろキッズタウン」の開催など、関係課や参加企業と協力し、職業体験機会を提供します。</p> <p>図書館においては、継続的にインターンシップや実習の受け入れ依頼があることから、体験者が希望する分野に沿った職業体験機会を提供します。</p> <p>百年記念館においては、地域資料を収集する博物館としての特色を活かしたインターンシップを継続し、地域に根差した職業体験機会を提供します。</p> <p>動物園においては、飼育体験等の事業におけるアンケートでの満足度が高いことから、今後も内容の充実に向けて取り組みます。</p>

個別施策	1-3 情報教育の推進
めざす姿	子どもたちがインターネットに関する基本的なルールを理解し、情報通信機器を正しく活用しています。
施策担当課	学校地域連携課、学校教育指導課

成果指標の状況							
指標名	授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思う子どもの割合(%)						
区分	基準値 【R1】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	87.4	81.0	—	—	86.0		90.0以上
中学校	73.8	79.0	—	—	78.0		80.0以上

<成果指標の達成状況>

全国学力・学習状況調査(文部科学省)における調査項目がなかったため、R3・R4については実績値はありませんでしたが、施策の状況を把握するために、R5より全児童生徒を対象に独自で調査を行いました。

その結果、小学校ではR2の実績値と比較して5ポイント増加し、中学校では1ポイント減少したものの、基準値を上回っており、目標値に向けて進捗しています。一人一台端末の導入から3年が経過し、各学校において授業等での活用が図られる中、子どもたちにとってICTが身近なものとなり、幅広い用途で自分のペースで活用できる利点に対する理解が進んだことによるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ プログラミング教育の推進</p> <p>プログラミング教育の必修化に伴い、プログラミング教育を通して子どもたちの情緒を育成したり、論理的な思考能力を育むことを目的に、R5より帯広市の全中学校にプログラミング教育の向上を図るアプリケーションを導入しました。子どもが幅広い用途で自分のペースで活用できる利点を最大限に生かしながら、長期休業中の自主的な取組や家庭学習等での活用等、各学校で特色ある利活用が進められています。</p>	 <p>中学校でプログラミング教育のアプリケーションを活用する様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)情報活用能力の育成</p> <p>各学校の教育課程編成において、子どもたちが様々な情報を主体的に収集・整理・分析し、発信・伝達する力を育成するため、「総合的な学習の時間」において、一人一台端末等のICTを活用した学習活動に取り組みました。また、長期休業中における研修講座や、おびGIGA支援員派遣による校内研修により、教員のICTを活用した指導力の向上に取り組みました。</p>
	<p>(2)情報モラルの育成</p> <p>各学校において、「特別活動」「道徳科」及び「総合的な学習の時間」で、情報モラルについての正しい知識を身に付けるため、著作権やプライバシーの保護等について理解を深める学習を進めるよう教育課程を編成しました。また、各学校の生徒指導担当の教職員を対象にした、関係機関との連携による講演会の開催（11月1日）や、携帯電話販売店に対し、携帯電話契約時のフィルタリングについての説明状況等の確認のため、立入調査を実施するなど、インターネットの安全利用に関する啓発活動に取り組みました。</p>
	<p>(3)プログラミング教育の推進</p> <p>コンピュータに意図した処理を実行するよう指示するプログラム体験を発達の段階に応じて実施する等、プログラミング的思考やICTを活用するために必要な資質・能力の育成に取り組みました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)情報活用能力の育成</p> <p>一人一台端末の日常的な活用の充実に向けた各学校への指導・助言、国や道の通知等の情報発信に取り組みます。また、実社会において情報がどのように活用されているか理解を深めるため、地元企業等と連携したICTを活用した教育を進めます。</p>
	<p>(2)情報モラルの育成</p> <p>関係機関や事業者、家庭と連携して、インターネットの利用に伴う危険性やフィルタリング機能の活用、SNSの正しい利用やインターネットの安全利用等について国や道の通知の共有や、出前講座の開催等を通じた啓発に取り組み、情報モラルを育成します。</p>
	<p>(3)プログラミング教育の推進</p> <p>一人一台端末を活用したプログラミング教育を行う単元について、各学校が教育課程へ位置付けるとともに、中学校技術科において、プログラミングを学習するアプリケーションを全中学校に導入し、より実践的な授業を展開します。</p>

個別施策	1-4 国際理解教育の推進
めざす姿	子どもたちが世界の多様な文化に関心を持ち、外国の人と交流しようとする姿勢を身に付けています。
施策担当課	学校教育指導課

成果指標の状況							
指標名	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H29～R1 平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	66.3	—	—	—	75.0		75.0 以上
中学校	64.4	—	—	—	70.0		75.0 以上

<成果指標の達成状況>

全国学力・学習状況調査(文部科学省)における調査項目がなかったため、R2～R4 については実績値はありませんでしたが、施策の状況を把握するために、R5 より全児童生徒を対象に独自で調査を行いました。

その結果、基準値と比較して小学校では8.7ポイント、中学校では5.6ポイント増加し、目標値に向けて進捗しています。「おびひろ市民学」の必須単元においてJICA 帯広に訪問し、国際理解について実地で学習したり、R2 より小学校で外国語が教科化されたことで、外国に対する興味関心が高まってきているものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ JICA 帯広における授業（おびひろ市民学）</p> <p>おびひろ市民学のうち、SDGs について学ぶ講座では、市内全ての中学校が JICA やはぐくむを訪問し、国際理解教育をはじめとした学習を行います。各国の SDGs と我が国の達成状況を比較・検討することを通して、自分たちにできることを考える体験的な学習を行いました。</p>	 <p>「おびひろ市民学」において、JICA 帯広を訪問し学習する様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)外国語を用いたコミュニケーション能力の育成</p> <p>小学校段階から外国語に親しみ、「読む・書く・聞く・話す」技能をバランスよく身に付けるため、各学年段階のつながりを意識した系統的な指導を行いました。また、外国語指導講師（ALT）の指導力向上のために、「ALT 研修 TIME」を実施したほか、長期休業期間でのサポート学習等で、児童生徒が外国語に触れる機会を充実させました。また、発達の段階に応じた指導計画を作成し、外国語指導講師や国際交流員等を効果的に活用し、生きた英語に触れる機会を提供するなど、体験的なコミュニケーション活動に取り組みました。</p>
	<p>(2)多様な国の伝統・文化に関する理解の促進</p> <p>世界の中の日本人として自覚を持ち、世界の民族の多様な言語や文化の違いに気づくことのほか、それぞれの生活・習慣・価値観を理解し協調しながら他国を尊重する姿勢を育むために、外国語指導講師や市の国際交流員との交流、JICA 帯広の授業等を通して、多様な国の伝統・文化に触れる機会を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)外国語を用いたコミュニケーション能力の育成</p> <p>児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力向上のため、小学校における外国語専科教員の配置や外国語指導講師を活用した授業に引き続き取り組むほか、今後も外国語指導講師の研修を行い、授業力の向上を図ります。また、外国語指導講師等との触れ合いを通して、外国語による児童生徒の実践的・日常的コミュニケーション能力の向上を進めます。</p>
	<p>(2)多様な国の伝統・文化に関する理解の促進</p> <p>子どもたちが多様な国の伝統・文化に関する理解を深めることができるよう、長期休業期間等を通じ、外国語指導講師による外国語のサポート学習に引き続き取り組んでいきます。さらに、森の交流館・十勝等、地域の施設や人材を積極的に活用し、体験的な活動を重視した国際理解教育の実践を進めます。</p>

個別施策	1-5 南商業高等学校における教育の推進
めざす姿	生徒たちが専門的な知識・技術を身に付け、地域で活躍する人材が育っています。
施策担当課	南商業高等学校

成果指標の状況							
指標名	地域貢献活動に主体的に取り組んでいる生徒の割合 (%)						
区分	基準値 【R1】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
—	26.7	15.7	16.6	17.6	33.3		50.0以上
<p><成果指標の達成状況></p> <p>R4と比較して15.7ポイント増加し、目標値に向けて進捗しています。新型コロナウイルス感染症対策のため縮小していた学校行事や、ボランティア活動が少しずつ再開され、活動の機会が増えたことによるものと考えられます。</p>							

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 南商業高等学校におけるキャリア教育の充実</p> <p>即戦力となる人材育成のため、計画的・組織的・系統的な進路指導や資格取得の支援等を行っています。</p> <p>1年生では、本校卒業生から就労体験を聞く「先輩訪問」や進路学習を行い、進路実現への意欲を高めるとともに、今何をすべきかを考える機会としています。2年生は、外部講師を招き、身だしなみや礼儀作法の指導を受けるマナー講習会を開催しました。3年生では、5月に面接基本指導、9月には模擬面接指導など、進学や就職試験に備えて準備を行いました。</p>	 <p>全商実務検定3冠以上 取得数全道一</p>

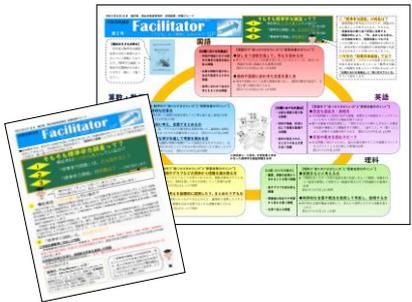
点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	(1)商業教育の充実 商業に関する実践的な知識・技術の定着と目標を持った学習に取り組んだ結果、卒業までに全国商業実務検定の1級を3種目以上取得した生徒の割合が全道で最多の82.4%となりました。なお、現地の状況確認や、研修内容の検討のため姉妹都市マディソン市への留学生派遣は中止となりました。
	(2)地域経済に貢献する人材の育成 マナー講習会の開催、インターンシップ、各種の模擬試験の実施等に取り組んだ結果、前年に引き続き就職・進学ともに内定率100%を達成しました。
	(3)地域社会との連携・協働による教育の推進 学校評価を活用し、学校の運営状況や教育活動について改善を図る取り組みを進めました。また、学校・家庭・地域が協働しながら子どもの健全な育成を図るため、学校運営協議会を開催しました。
	(4)地域とつながる活動の推進 地域住民に学習機会を提供し、地域と学校のつながりの足進を図る学校開放講座は、全国大会で優勝したクッキング部を講師として、料理教室を開催しました。また、ボランティア活動も一部再開しました。
課題及び今後の方向性	(1)商業教育の充実 商業に関する実践的な知識・技術の定着と目標を持った学習を通じて、実践力を高める指導に取り組むとともに、多様な進路に対応した教育課程を編成します。また、国際理解教育については、マディソン市派遣研修実行委員会等と連携し、安全に交流できる体制や研修内容を検討します。
	(2)地域経済に貢献する人材の育成 様々な事業所と連携したインターンシップや、外部講師による講習会の開催のほか、進路指導や各種検定試験合格に向けた学習支援等により即戦力となる人材育成の充実に取り組めます。
	(3)地域社会との連携・協働による教育の推進 学校運営協議会から学校運営に対する意見をいただくほか、学校評価を活用するなどして、学校の運営状況や教育活動について今後も改善を図ります。
	(4)地域とつながる活動の推進 学校開放講座については、学校施設や人材の活用により地域住民に学習機会の提供と、学校の理解促進を図っていきます。 生徒のボランティア活動については、安全にボランティア活動に参加できるよう、主催者等と連携を図り取り組んでいきます。

基本施策2 変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成

個別施策	2-6 学びを生かす力の育成
めざす姿	子どもたちが意欲的に学び、課題の解決に粘り強く取り組んでいます。
施策担当課	学校教育指導課、教育研究所、図書館、児童会館

成果指標の状況							
指標名	授業において、課題の解決に向けて自ら考え取り組んでいると思う子どもの割合 (%)						
区分	基準値	実績値					目標値
	【H30～R1 平均】	R2	R3	R4	R5	R6	(R11)
小学校	75.8	71.7	74.8	76.1	74.5		85.0 以上
中学校	79.8	75.7	85.2	81.9	84.7		85.0 以上

<成果指標の達成状況>
R4 と比較して中学校では 2.8 ポイント増加しており、目標値に向けて進捗しています。小学校では R4 と比較して 1.6 ポイント減少したことから、各種学力調査の分析や帯広市教育委員会作成の教材活用を進める必要があると考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 授業改善への取組</p> <p>各学校に対して法令に基づく学校教育指導訪問を行いました。この訪問は、学校経営をはじめ、教育課程、校内研究、学習指導等へ指導・助言を行うもので、学校における授業工夫や改善のアプローチについても交流します。</p> <p>このような動きかけを通して、子どもたちが意欲的に学び、課題の解決に向けて、粘り強く取む授業づくりを進めます。</p>	 <p>学校教育指導訪問で授業を観察する様子</p>
<p>◆ 授業改善通信の配付</p> <p>帯広市教育研究所と研究協力員が標準学力調査の出題傾向を分析し、各教科の学習において身に付けておくべき力や、授業改善のポイントについて「授業改善通信」にまとめ、市内全小中学校及び義務教育学校へ配付しました。</p>	 <p>授業改善通信</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	(1)学校における授業の工夫・改善 「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視し、一人一台端末を活用した授業の推進により、個別最適な学びや協働的な学びを進めました。
	(2)学習活動の支援 教育研究所ホームページにおいて、常時ダウンロード可能な小中学生向け教材を掲載したほか、朝の読書や調べ学習等における「ぶっくーる便」の活用、放課後の学習会開催等の学びの機会を提供しました。また、登校ができない児童生徒の学びを保障するために、メタバース空間を活用した学びを進めました。
	(3)教育課程の工夫・改善 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成及び実施を支援するため、「教育課程編成の手引き」を作成し、行事の方向性等の共有を図ったほか、小中義務教育学校において、一貫性のある教育が実施されるよう、エリアを中心として学力向上や体力向上等の課題に向けたエリア共通の取り組みの計画をはじめとする小中連携を進めました。
	(4)学力の分析・検証 標準学力調査の分析結果をまとめた「帯広の子どもの学力」を全小中学校及び義務教育学校に配布することで、各学校で自校の学力分析・検証を行い、児童生徒の実態を把握して授業改善につなげ、学力の向上に寄与しました。
	(5)体験的・問題解決的学習の推進 学校での授業のほか、児童会館での科学実験・工作、図書館での講習会の開催等、科学や自然に対する興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を養う体験学習を進めるとともに、関係機関と連携しオンラインを活用した施設見学を行いました。
課題及び今後の方向性	(1)学校における授業の工夫・改善 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と「子ども」が主体となる授業実践に向け、一人一台端末をより主体的に活用する授業に取り組みます。
	(2)学習活動の支援 一人一台端末で活用できる教材作りに引き続き取り組むほか、「ぶっくーる便」については、計画的な入替により子どもたちにとって魅力的な図書を提供します。また、不登校児童生徒への学びの保障等、メタバース空間をはじめとするオンラインを活用した学びの充実を進めます。
	(3)教育課程の工夫・改善 目標の実現に必要な教育の内容等を横断的な視点で組み立てるカリキュラム・マネジメントの充実を図るとともに、全小中義務教育学校の適切な教育課程の編成と学習指導の改善に資するために「教育課程編成の手引き」の見直しを継続します。
	(4)学力の分析・検証 子どもたちの学力の実態や標準学力調査の特徴を総合的に分析し、指導方法の改善につながる事項を示して、学校に還元します。
	(5)体験的・問題解決的学習の推進 図書館や児童会館では、学校の二ーズを踏まえながら各種の学習機会を提供します。

個別施策	2-7 豊かな人間性と創造性の育成
めざす姿	子どもたちが互いの価値観を尊重し、多様な人と協力し取り組んでいます。
施策担当課	学校教育課、学校教育指導課、生涯学習文化課、図書館、児童会館、百年記念館、動物園

成果指標の状況							
指標名	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27~R1平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	69.7	70.7	76.6	78.3	79.7		85.0以上
中学校	71.1	79.5	78.7	81.7	83.6		85.0以上
<p><成果指標の達成状況></p> <p>R4と比較して小学校は1.4ポイント、中学校では1.9ポイント増加し、目標値に向けて進捗しています。各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みが進んだことによるものと考えられます。</p>							

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 道徳教育の充実</p> <p>子どもたちの道徳性を育むため、道徳的な諸価値について自分事として考え、自己の生き方についての考えを深めることができるよう、道徳の授業の質を高めることを目的として、公開研究会を行いました。</p> <p>授業の中で自分の考えを基に友達と話し合い、よりよく生きるために考えを深める子どもたちの姿から、授業改善のための方策について教職員から活発な意見交流がなされました。</p>	 <p>授業改善の方策について意見交流が行われている様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>公開研究会等を活用した校内外における教職員向け研修の充実を図り、考え・議論する道徳に向けた道徳科の授業改善を進めました。また、他教科との関連や評価の充実等による道徳科を要とした教育活動を展開し、子どもたちの道徳性を育む取り組みを進めました。</p>
	<p>(2)読書活動の推進</p> <p>図書ボランティアによる読み聞かせ等のほか、学校図書館の図書整備や韓読書を通じた子どもたちの読書活動への興味関心の向上に取り組みました。また、多様な読書機会を確保するため、おはなし会の開催や、各種ブックリストの作成、電子書籍の利用促進を通じ、学校と図書館が連携した取り組みを行いました。</p>
	<p>(3)文化芸術活動の推進</p> <p>子どもたちの感性や創造力を育むため、音楽・図画工作・美術・技術・家庭科の授業等において多様な文化芸術の体験的な学習活動を推進したほか、芸術文化に触れる機会を提供するため、子ども向けの鑑賞事業を実施しました。また、各学校においてICTを活用した学習発表会や文化祭が展開されるなど、子どもたちの情操教育に取り組みました。</p>
	<p>(4)体験活動の推進</p> <p>「おびひろ市民学」において、ICTを活用し工場見学をオンラインで実施するなど、空間的・時間的な工夫を通じて、子どもたちへ体験活動機会の提供に取り組みました。また、各種社会教育施設と連携し、動物とのふれあい体験や科学体験、防災体験や文化芸術体験等、地域の特色を生かした体験活動を推進し、「児童生徒が触れて学ぶ」機会を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>引き続き、校内外における教職員向け研修の充実を図り、道徳科の授業改善を進めるほか、地域人材やゲストティーチャーの活用、他教科との関連や評価の充実等による道徳科を要とした教育活動を展開し、子どもたちの道徳性を豊かに育みます。</p>
	<p>(2)読書活動の推進</p> <p>図書ボランティアや司書教諭及び関係部署との連携を図るほか、電子書籍の利用促進を通して読書活動の活性化に取り組みます。また、将来の担い手として、「語り手育成講習会」等により新規ボランティアを養成します。</p>
	<p>(3)文化芸術活動の推進</p> <p>演劇鑑賞等の良質な文化芸術に触れる機会の提供を通じて、引き続き子どもたちの文化芸術活動の推進に取り組みます。また、より効果的な各学校の学習発表会や文化祭の在り方を検討し、子どもたちの情操教育を進めます。</p>
	<p>(4)体験活動の推進</p> <p>ICTを活用する等、空間的・時間的な工夫に継続して取り組むとともに、各種社会教育施設と連携し、魅力ある体験活動機会を提供します。</p>

個別施策	2-8 健やかな体の育成
めざす姿	子どもたちが運動に親しみ、心身ともに健康的な生活を送っています。
施策担当課	企画総務課、学校教育課、学校給食センター、学校教育指導課、図書館、スポーツ課

成果指標の状況							
指標名	朝食を毎日食べている子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27~R1 平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	94.0	91.0	92.1	91.7	92.5		100.0
中学校	93.6	94.0	92.9	91.1	89.1		100.0
<成果指標の達成状況> R4と比較して小学校では0.8ポイント増加していますが、中学校では2ポイント減少しており、小中学校とも基準値を下回っています。食に関する啓発資料等の配布や、食育指導専門員等を各学校へ派遣し、給食指導の支援や食に関する指導が進んでいるものの、望ましい食生活習慣に係る家庭との連携が十分ではないことによるものと考えられます。							
指標名	1週間当たり60分以上運動・スポーツをする子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H26~H30 平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	88.5	—	86.1	89.6	84.8		95.0以上
中学校	85.9	—	85.9	90.1	81.1		90.0以上
<成果指標の達成状況> R4と比較して小学校では4.8ポイント、中学校では9ポイント減少しており、目標に向かって進歩していません。調査結果をもとにした授業改善に取り組んでいるものの、生活習慣改善に向けた家庭との連携が十分でないことによるものと考えられます。							

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 学校における体育指導の充実</p> <p>本市教育委員会内に「帯広市体力向上推進プロジェクトチーム」を設置し、小中一貫教育の視点に立ち、体力向上を図る取り組みをエリア・ファミリー内で実施するなど、9年間を見通した体力向上に係る環境づくりや認識の改善を図りました。また、体力向上に資する取り組みとして、器械運動やスピードスケートの専門家の派遣による出前授業を実施し、小中義務教育学校の授業改善を進めました。</p>	 <p>令和5年度帯広市体力向上PT主催 出前講座 大学准教授による出前授業 帯広畜産大学准教授（ちくたくIP創設者） 村田 浩一郎 氏 小学校向け「器械運動」授業講座 講座1 中学校向け「器械運動」授業講座 講座2 専門家による出前授業の実施</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	(1)体力・運動能力の向上 各学校において、過去の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を検証し、授業への反映や生活習慣の見直しに取り組みました。また、スポーツ少年団や指導員への支援を実施したほか、地域のスポーツ文化であるスケートの普及振興に取り組みました。
	(2)安全・安心な学校給食の提供 地元の農業関係者等と連携し、安全・安心な地場産食材を取り入れた給食の提供を行ったほか、アレルギーを持つ児童生徒が安心して給食時間を過ごせるよう、「学校給食物アレルギー対応マニュアル」に基づく取り組みを行いました。
	(3)正しい「食」への理解の推進 「おびひろ市民学」における「帯広らしい食育プログラム」のもと、栄養教諭や食育指導専門員を各学校へ派遣し、給食指導の支援や食に関する指導を行ったほか、「朝食レシピコンテスト」を実施し、食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の啓発を図りました。また、図書館常設の食文化コーナーにて月毎のテーマに合わせて図書を入れ替え、食に関する様々な図書を展示しました。
	(4)健康教育・健康保持 子どもたちの健康保持増進のため、各学校での学校保健委員会の開催等を通じた取り組みを働きかけたほか、学校の教育活動全体を通じて、がん教育や体育・健康に関する指導を行いました。また、基本的な感染症対策を継続しながら、子どもたちの学びの保障を確保するため、衛生用品の購入等による学校環境の整備を行いました。
課題及び今後の方向性	(1)体力・運動能力の向上 体力向上推進プロジェクトチームによる研修会の開催及び各学校への大学教授等の専門的な指導を通じて、授業改善を図るとともに、子どもたちの体力・運動能力の分析・検証を進めます。また、各団体への支援を通じて指導者の育成を図り、少年団へ安心して加入できる環境づくりに取り組むほか、スピードスケート教室などを通じたスケートの普及振興に取り組めます。
	(2)安全・安心な学校給食の提供 地場産食材の導入を進めるほか、適切な栄養バランスを考慮した学校給食の提供により児童生徒の健全な心身の発達を図ります。また、食物アレルギーを持つ児童生徒が増加傾向にあることから、アレルギーに関する正確な情報及び除去食の提供を行い、学校給食における事故防止に取り組めます。
	(3)正しい「食」への理解の推進 子どもたちが食事や栄養の摂り方等について、正しい知識に基づいて自ら判断し健全な食生活を実践できる資質・能力を育むため、「食育通信」等の資料の配布や、帯広市食育推進部会による児童生徒と家族が一緒に朝食作りに取り組むイベント、食育講演会を実施します。また、図書館では食育月間に合わせて、食をテーマにした映画会・おはなし会を開催し、食への理解を促進します。
	(4)健康教育・健康保持 子どもたちが性に関する正しい知識を身に付け、心身の発達に関して理解を深め、自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を醸成できるよう、発達の段階に応じた教育を進めます。また、各学校において、学びの機会の確保を図ります。

個別施策	2-9 教員の資質・能力の向上
めざす姿	教員が子どもたちと向き合い、子どもたちの力を引き出す指導が行われています。
施策担当課	企画総務課、学校教育課、学校教育指導課、教育研究所、スポーツ課

成果指標の状況							
指標名	授業の内容がよくわかると思う子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27~R1平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	82.6	83.1	84.8	83.8	81.3		90.0以上
中学校	74.8	71.2	79.4	79.0	78.0		80.0以上

<成果指標の達成状況>

R4と比較して小学校では25ポイント、中学校では1.0ポイント減少し、目標に向けて進捗していません。指導主事による学校教育指導訪問、学校管理職や教職員の指導力や資質能力の更なる育成・向上を目指した研修等において、一人一台端末の効果的な活用等、今日的な教育課題について、積極的かつ具体的な協議を行っているものの、スキルの定着や実践力の向上に課題があるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 教職員向け講座・研修の開催</p> <p>教職員の資質向上に関わる取り組みとして、「夏季・冬季研修講座」「ONE-UP 研修会」を開催しました。研修を対面参加とオンラインを併用して開催したほか、帯広市教育研究会の部会と共催で講座を開催するなど、教職員の要望を踏まえた講座を全18回実施しました。</p> <p>また、令和5年度には、教職員経験年数20年以上の教職員を対象に、教職員としての知識・技能の更新や若手・中堅教職員への指導ができる資質・能力の向上が図られるよう、講義や協議、演習等を通じて、実践的な研修を実施する「エキスパート教職員実務研修」を全5回開催し、84人の教職員が参加しました。</p>	 <p>冬季研修講座の様子</p>  <p>エキスパート教職員実務研修の様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1) 教員の指導力の向上</p> <p>指導主事による学校教育指導訪問において、管理職や教職員に指導・助言を行ったほか、学力向上推進プロジェクトチームによる授業改善ワンポイント講座を実施しました。また、ICTの効果的な活用を一層促進するため、夏季・冬季研修講座において、GIGA スクールの先進地から講師を招いた研修の実施や、「おびGIGA 支援員」を各学校の要望に応じた支援を行いました。</p>
	<p>(2) 教職員の働き方改革の推進</p> <p>教職員の勤務状況の改善等に向けて、「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン（第2期）」に基づき、各学校と連携した取り組みを実施した結果、教職員の時間外在校等時間は減少傾向にあります。令和5年2月に校務支援システムを導入後、令和5年度から本格的な運用を開始し、校務の効率化を進めたほか、令和5年8月に、中学校全校に留守番電話を導入し、勤務時間外の電話対応による教職員の負担軽減を図りました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 教員の指導力の向上</p> <p>学力向上推進プロジェクトチームの会議等を通じて、小中義務教育学校の教職員が連携した授業改善に向けた取り組みの充実や、教員の資質能力や豊かな人間性と社会性の向上を進めます。また、教職員向けの研修については、受講率の向上を図るため、一人一台端末の活用や今日的な課題を取り上げる等、教職員の技能や指導力向上につながる講座の企画に取り組みます。</p>
	<p>(2) 教職員の働き方改革の推進</p> <p>これまでの取り組みにより、教職員の時間外在校等時間は減少してきていますが、推進プランの目標である「1 か月あたりの上限 45 時間」を超えている教職員が一定数おり、引き続き働き方改革に取り組む必要があります。今後、ICTを活用した校務の効率化や学校行事の見直しなど、推進プランで掲げる各項目について、学校及び市教委関係課等が取り組んでいきます。</p>

基本施策3 地域とともに育む教育の推進

個別施策	3-10 地域との連携・協働の推進
めざす姿	地域の人たちが子どもたちの教育に積極的に関わり、健やかな成長を支えています。
施策担当課	学校地域連携課、学校教育指導課、生涯学習文化課

成果指標の状況							
指標名	地域の行事に参加している子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27～R1 平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	58.2	50.4	47.8	46.3	50.0		70.0 以上
中学校	35.2	34.3	35.1	29.3	31.7		50.0 以上

<成果指標の達成状況>
R4と比較して小学校では3.7ポイント、中学校では2.4ポイント増加しており、基準値は下回っているものの、目標値に向けて進捗しています。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、地域の行事に参加する機会が増えたことによるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ こども学校応援地域交付金事業の推進</p> <p>地域の子どものために活動しているボランティア団体同士の連携を促進するため、こども学校応援地域基金を活用し、活動を支援する交付金事業を行っています。</p> <p>令和5年度は、感染症が5類に移行したことに伴い、地域活動が活発化し、夏祭りや防災教室、環境整備等、過去最多の17件の交付金事業を実施しました。</p>	 <p>夏祭りの様子 (つつじが丘小学校)</p>
<p>◆ 子どもの居場所づくり事業の実施</p> <p>子どもの社会性や自主性を育むため、地域ボランティアやNPO法人が、放課後や休日に小学校の体育館などを活用し、異学年の友達や地域の人との交流など、様々な体験・活動ができる機会を提供しています。令和5年度は、実施回数499回、延べ11,723人の児童が参加しました。</p> <p>また、ボランティアスタッフの募集のため、PR活動を行ったほか、ボランティア養成講座を開催し、指導技術等の向上に取り組みました。</p>	 <p>放課後子ども広場の様子 (うちわ作り)</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)地域における支援体制の充実</p> <p>研修会の開催やコミュニティ・スクール通信の発行により、各学校の活動や協議内容の情報周知に取り組んだほか、指導主事の学校教育指導訪問時にコミュニティ・スクール導入による好事例の紹介等を行いました。また、学校・家庭・地域が一体となった活動の足進や人材育成のため、「帯広市学校・家庭・地域協働会議」における意見交換や学校運営協議会委員、地域ボランティア、地域コーディネーター向けの研修会を実施したほか、「こども学校応援地域基金」を活用したこども学校応援地域交付金により団体同士の連携した活動への支援を行いました。</p>
	<p>(2)子どもの安全対策の充実</p> <p>登下校時の子どもの見守り活動を全小中義務教育学校で実施したほか、災害情報や不審者情報だけでなく、熱中症等に関わる情報提供も加えた、「帯広市子供安全ネットワーク」を活用した保護者への速やかな情報発信に取り組みました。また、庁内外の関係機関と連携して通学路危険か所の点検を行い、点検結果を公表し、安全対策について関係機関へ依頼したほか、登下校時に危険が迫った場合等に逃げ込む「子ども110番の家」の設置について協力を依頼しました（令和5年度末現在981か所）。</p>
	<p>(3)地域主体の体験活動への支援</p> <p>子どもの居場所づくり事業においては、異世代交流や多様な体験活動を通して、豊かな人間性や社会性の涵養^{ひんやう}に取り組みました。青少年育成団体の活動においては、実施可能な事業について工夫して取り組み、子どもたちに体験活動機会を提供しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)地域における支援体制の充実</p> <p>学校・家庭・地域の連携・協働による「地域とともにある学校づくり」を進めるため、地域との熟議や協働による取り組みを進めるほか、指導主事による学校教育指導訪問時に、取り組み状況に応じた全国の好事例の情報提供を行います。また、学校と地域との連携した活動や学校運営協議会委員の研修等に取り組むほか、こども学校応援地域交付金による各地域の取り組みを周知し、ボランティア団体同士が連携した活動のさらなる拡大を図ります。</p>
	<p>(2)子どもの安全対策の充実</p> <p>活動団体の担い手確保を継続し、地域ぐるみで見守り活動に取り組むほか、保護者がいち早く災害情報や不審者情報を得られるよう、「帯広市子供安全ネットワーク」の周知を進めます。また、通学路の安全確保については、今後も担当部署や関係機関と情報の共有を図りながら、必要に応じて危険か所の合同点検を実施し対策を検討するほか、登録者の確保により「子ども110番の家」設置か所の拡充を図ります。</p>
	<p>(3)地域主体の体験活動への支援</p> <p>子どもの居場所づくり事業は、事業を担うボランティア登録者数や実施回数及び参加児童数が感染症流行以前より減少しているため、実施方法やPR活動を工夫し事業を継続します。また、青少年育成団体の各事業においては、関係団体と協力し、引き続き魅力ある体験活動機会の提供を進めます。</p>

個別施策	3-11 家庭教育への支援
めざす姿	各家庭において、子どもたちが規則正しい生活習慣や社会的なマナーを身につける教育が行われています。
施策担当課	学校給食センター、学校教育指導課、生涯学習文化課、図書館

成果指標の状況							
指標名	家の人と学校での出来事について話をする子どもの割合 (%)						
区分	基準値 【H27～R1平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	77.8	73.2	—	—	82.0		85.0以上
中学校	76.6	77.8	—	—	82.0		85.0以上

<成果指標の達成状況>

全国学力・学習状況調査(文部科学省)における調査項目がなかったため、R3・R4については実績値はありませんでしたが、施策の状況を把握するために、R5より全児童生徒を対象に独自で調査を行いました。

その結果、小学校では8.8ポイント、中学校では4.2ポイント増加し、目標値に向けて進捗しています。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校行事等が活発に行われるようになったことから、家の人と話をする割合が増えたものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 教育相談の充実</p> <p>こころの教室相談員及び家庭訪問相談員を配置し、子どもたちの進路や学業不振、友人関係のほか、いじめや不登校等の子どもの教育に関する悩みについての相談に対応しました。</p> <p>相談員会議等を通して研修を深めるとともに、学校や関係機関との円滑な連携を図り、一人一人のニーズに合わせた継続的な支援体制を整えてきました。</p>	 <p>相談員会議で研修を深める様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)教育相談の充実</p> <p>こころの教室相談員及び家庭訪問相談員を配置し、子どもたちの進路や学業不振、友人関係のほか、いじめや不登校等の子どもの教育に関する悩みについての相談に対応しました。</p>
	<p>(2)家庭教育力向上のための支援</p> <p>学校においては、子どもたちの基本的な生活習慣の確立に向けて、起床や食事の摂取状況を家庭において記録するためのシートを配布し、家庭への助言を行いました。</p> <p>また、家庭に向けては「食育通信」の配布等を通じて、児童生徒の家庭における食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の啓発を図りました。</p> <p>そのほか、妊娠期からのおはなし会への参加の呼びかけや、乳幼児健診におけるブックリストの配布により、保護者への啓発活動を進めたほか、家庭における日常的な読書習慣の確立を目的に「家読」に取り組みました。</p>
	<p>(3)PTA との連携の促進</p> <p>学校と家庭が連携して子どもたちの健やかな成長を育むため、各学校のPTA 間において情報交換を行いました。また、帯広市PTA 連合会への補助金の支出やPTA による各種事業の後援等、PTA 活動への支援を行いました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)教育相談の充実</p> <p>教育相談員体制のさらなる充実と、より有効な教育相談員の活用を図るため、配置日数の調整等の工夫を進めるとともに、相談員会議等を通して研修を深め、相談業務の充実を図ります。</p>
	<p>(2)家庭教育力向上のための支援</p> <p>学校においては、子どもたちの基本的な生活習慣の確立に向けて、「おびひろ市民学」を中核として消費者教育・人権教育等様々な視点から啓発を進めます。また、家庭に向けて、図書館における絵本セットの内容の充実に取り組み、子育て世帯への支援を進めます。そのほか、ライフスタイルの変化による児童生徒の食生活の乱れを改善するため、「食育通信」の配布等を通じて食育を進めます。</p>
	<p>(3)PTA との連携の促進</p> <p>家庭における教育力を高めるため、各校のPTA や帯広市PTA 連合会等との情報交換を進めるほか、関係団体への行政支援を継続し連携強化に取り組みます。</p>

個別施策	3-12 学びと育ちをつなぐ学校づくりの推進
めざす姿	学校間の連携により、子どもの個性を理解し尊重した指導が継続的に行われています。
施策担当課	学校地域連携課、学校教育指導課

成果指標の状況							
指標名	小・中学校9年間を見通した授業を行っている学校の割合 (%)						
区分	基準値 【R1】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	19.2	19.2	19.2	32.0	30.8		100.0
中学校	21.4	21.4	14.3	30.8	15.4		100.0

<成果指標の達成状況>

R4と比較して小学校では1.2ポイント、中学校では15.4ポイント減少しており、目標値に向けて進捗していません。小中学校において、それぞれの課題を共有しながら、授業交流や教職員による協議等、質を向上させるための取組を進めているものの、小中学校での協議時間の確保が難しく、授業への反映が十分に進んでいないことによるものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 幼保小中間の相互理解の推進</p> <p>帯広市では、中学校区を1つのエリアとし、幼保小中間の相互理解を図る「帯広市エリア・ファミリー構想」を推進しています。</p> <p>令和5年度については、5月に帯広市学校・家庭・地域協働会議を開催したほか、各エリアの代表者が集まり、学力向上や体力向上、生徒指導に関わる目標設定や共通の取り組みについて協議する、プロジェクトチーム会議を開催しました。</p>	 <p>プロジェクトチーム会議の様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)学校間の連携の推進</p> <p>「帯広市エリア・ファミリー構想」に基づき、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校において、それぞれ行われている教育への理解を深めるため、職員間交流を通じた情報共有を行いました。また、学びのつながりを意識した教育課程の編成を進めるため、エリア・ファミリーの代表者が集まり、学力向上、体力向上、生徒指導に関わる諸問題について協議し、エリア共通の取り組みを進めました。</p>
	<p>(2)通学区域の見直しの実施</p> <p>小中学校の連携や地域ぐるみの教育を一層推進するため、学校の適正規模の確保に関する取り組みと合わせ、通学区域の見直しについて検討を行いました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)学校間の連携の推進</p> <p>小中一貫教育の更なる充実に向け、教育課程の見直し及び編成を進めます。また、幼保・小・中における教育実践への相互理解を深められるよう、各エリア内における授業交流や乗り入れ授業を実施するとともに、学校の教員で構成される課題ごとの部会において、教育課題の共有や取組の共通化を図るなど、より詳細な情報共有や学校種間の連携強化を進めます。</p>
	<p>(2)通学区域の見直しの実施</p> <p>小中学校の連携や地域ぐるみの教育を一層推進するため、学校の適正規模の確保に関する取り組みと合わせ、通学距離、幹線道路、河川等の地理的条件や地域コミュニティとの整合性、一つの小学校から複数の中学校に分かれる分散進学の解消等に配慮し、通学区域の見直しを進めます。</p>

基本施策4 安全・安心な教育環境の整備

個別施策	4-13 誰もが安心して学べる教育の推進
めざす姿	障害の有無や家庭の経済状況等に関わらず、誰もが安心して学んでいます。
施策担当課	企画総務課、学校地域連携課、学校教育課、学校教育指導課、教育研究所

成果指標の状況							
指標名	「いじめは絶対に許されない」と考える児童生徒の割合 (%)						
区分	基準値 【H27～R1 平均】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
小学校	96.2	97.5	96.4	96.8	96.0		100.0
中学校	94.2	96.8	96.2	96.7	97.6		100.0

<成果指標の達成状況>
R4と比較して小学校では0.8ポイント減少し、中学校では0.9ポイント増加しました。小学校は基準値を下回りましたが、特別の教科道徳を要とした各校における道徳教育の充実や、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会等による啓発活動に取り組むことで、中学校を中心に一定程度の成果がみられたものと考えられます。

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ ひろびろチョイスの運営</p> <p>不登校児童生徒の多様な学びの機会を確保し、社会的自立につなげていくことを目的として、「Choice (選べる)」「Connect (つながる)」「Cheer (応援する)」の3つの「C」をコンセプトに、メタバース空間を活用した「ひろびろチョイス」を創設し、オンライン形式と集合形式による多様な学びを提供しました。令和5年度は139人が在籍しており、相談員や指導主事、関係機関との連携により、個別学習や教育相談、体験学習等を行いました。</p>	 <p>仮想空間に教室開設する「ひろびろチョイス」の様子</p>
<p>◆ 市内小中学生いじめ・非行防止合同サミットの開催</p> <p>6月に市内の小中学生100人以上が参加して、オンラインで「一人一人が笑顔で楽しく過ごせる学校」をテーマに、自分たちのエリアではどのような活動を行えばよいか協議しました。</p> <p>また、協議内容を踏まえ、各エリアにおいて、笑顔で過ごせる学校となるための7月以降の取り組みについて検討し、参加者からは、挨拶運動等、児童会生徒会が連携した取組のアイデアについて意見が出されました。</p>	 <p>オンラインで行った「市内小中学生いじめ・非行防止合同サミット」の様子</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1)いじめ・非行の防止</p> <p>道徳科の学習を要として、子どもたちがいじめや人権について皆で考え、議論する場を設け、意識向上に取り組んだほか、市内小中学生いじめ・非行防止合同サミットを開催し、児童会生徒会主催の取組を協議するとともに、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会等による啓発活動を行いました。また、地域の指導協力員と街頭巡回指導等を通じた非行防止活動を実施しました。</p>
	<p>(2)不登校への対応</p> <p>不登校傾向の子どもに対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、こころの教室相談員、家庭訪問相談員等と連携し、子どもや保護者からの相談対応や助言等を行いました。また、子どもの自立や学校生活への復帰を支援するため、教育支援センターの運営、教育相談、個別学習や一人一台端末を活用したオンライン授業等に取り組みました。</p>
	<p>(3)教育機会の確保</p> <p>経済的な理由により児童生徒の就学が困難な保護者へ就学援助費を支給したほか、奨学資金の貸与を通じて、大学等への就学を支援しました。また、農村地域で遠距離通学となる児童生徒への支援としてスクールバスを運行しました。そのほか、市内高等学校の間口確保のため、「公立高等学校配置計画地域別検討協議会」に出席し、情報収集を行いました。</p>
	<p>(4)一人一人に応じた教育の充実</p> <p>個別の指導計画及び教育支援計画の作成、関係機関・保護者との情報共有や特別支援教育に係る教員の知識・技能の習得を進めたほか、LGBT等の当事者を招いた研修の実施、特別支援学級の設置やアイヌ子弟の遠隔地での就学支援のための扶助費支給等により、支援や配慮が必要な子どもたちの学びの環境整備に取り組みました。また、学力の向上、健やかな成長のため、豊かな自然環境を生かした特色ある教育活動を実施する小規模特認校制度を推進しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1)いじめ・非行の防止</p> <p>いじめの未然防止や就学に対する支援等、誰もが安心して学ぶことができる環境の整備を進めるほか、街頭巡回指導等や非行防止活動に取り組みます。</p>
	<p>(2)不登校への対応</p> <p>家庭や児童生徒の悩みの複雑化、原因の多様化が見られるため、教育相談員の専門性の向上を図る研修の実施や相談体制の充実、関係機関との連携強化を進めます。また、一人一人の社会的自立を支援できるよう、教育支援センターに創設したメタバース空間「ひろびろチョイス」を活用し、幅広いニーズに応えます。</p>
	<p>(3)教育機会の確保</p> <p>他地域の事例を参考にしながら就学や通学に関わる経済的な支援を行います。また、スクールバスの安定的な運用のため、車両更新や運転手の確保について検討するほか、市内高等学校の間口を維持・確保するため、会議等の機会を通して、情報収集や要望活動を行います。</p>
	<p>(4)一人一人に応じた教育の充実</p> <p>障害や学習において困り感を抱えた子どもたちが、一人一人の特性や状況にあった環境で教育を受けられるよう、教育相談体制の確保と関係機関との連携強化を図るとともに、特別支援学級の継続設置や通級指導教室の開設等により、多様な学びの場の整備を進めます。</p> <p>また、教職員向けの研修により、今日的な課題であるLGBT等やHSC（Highly Sensitive Child）、ヤングケアラー、障害のある児童などへの理解促進の取り組みを進めます。</p>

個別施策	4-14 安全で充実した教育環境の整備
めざす姿	安全で機能的な学校施設の整備など、良好な教育環境のもとで、子どもたちが充実した学校生活を送っています。
施策担当課	企画総務課、学校地域連携課、学校教育課、南商業高等学校

成果指標の状況							
指標名	長寿命化改修の実施校数（校）						
区分	基準値 【H30】	実績値					目標値 (R11)
		R2	R3	R4	R5	R6	
—	0	0	1	1	1		9
<p><成果指標の達成状況></p> <p>R4 と比較して同数値であり、目標値に向けて進捗していませんが、今後の長寿命化改修に向け、南町中学校の基本設計を実施しました。 ※実績値は、長寿命化改修工事を実施した累積の学校数です。</p>							

令和5年度の主な取り組みの内容	
<p>◆ 小学校机・椅子の更新</p> <p>全小中学校において、「軽くて運びやすく」「傷付きにくい」スチール製の机・椅子への計画的な更新を実施しており、令和5年度は小学校1・2年生21校分2,220セットの更新を行い、全小中学校での机・椅子の更新が完了しました。</p>	 <p>スチール製机椅子</p>
<p>◆ 旧大空小学校の解体工事（1期）の実施</p> <p>大空学園義務教育学校の開校に伴い、旧大空小学校の解体工事を令和5年度から6年度にかけて行っています。令和5年度は石綿含有建材除去、解体工事を実施しました。</p>	 <p>大空小学校 解体写真</p>
<p>◆ 教材教具整備事業</p> <p>教育振興基金を活用し、ピアノや木琴、サッカーゴール等を更新したほか、トロンボーンや鉄棒の修繕を行うなど、高額な教材・教具について整備を進めました。</p>	 <p>設置されたグランドピアノ</p>

点検及び評価の結果	
項目	内容
取り組みの成果	<p>(1) 学校施設の整備</p> <p>小中学校において、煙突用断熱材除去（小学校2校）、屋内運動場屋根改修工事（小学校1校）のほか、個別改修を行いました。また、旧大空小学校の解体工事（1期）、南町中学校長寿命化改修の基本設計、小学校のエアコン設置に向けた事前調査を実施しました。南商業高等学校においては、特別教室等に網戸を設置、屋内運動場バスケットゴール等を修繕しました。</p>
	<p>(2) 学習環境の整備</p> <p>学校ICTヘルプデスクを通じて、小中義務教育学校に配置した児童生徒の一人一台端末などの維持管理を行ったほか、小学校1・2年生21校分の机・椅子の更新を行いました。</p> <p>国の事業を活用し、換気対策等と目的として、小中義務教育学校へのスポットクーラーの整備や南商業高等学校への窓枠エアコンを整備しました。</p>
	<p>(3) 学校適正規模確保の推進</p> <p>「帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する計画」に基づき、学校の小規模化の影響がより顕著に生ずる可能性のある学校を対象に、近隣校との交流授業等を実施しました。</p>
課題及び今後の方向性	<p>(1) 学校施設の整備</p> <p>「帯広市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的かつ継続的な修繕を行い、学校施設の長寿命化及び機能・性能の改善に取り組みます。</p>
	<p>(2) 学習環境の整備</p> <p>小中義務教育学校においては、児童生徒が主体的に学び、自ら問題を発見し解決できる力の育成を図るため、学校生活等における一人一台端末の活用範囲の拡大を進めます。</p>
	<p>(3) 学校適正規模確保の推進</p> <p>児童生徒数及び学級数を毎年度推計し、結果について市民へ情報提供します。また、小中学校適正規模の確保については、学校の小規模化による影響の緩和を図る取り組みを進めます。</p>